

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成18年
2月号

毎月23日発行
通巻426号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成18年2月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



法主様奥津城 齋藤正宏(助手・杉本順一)さん撮影/関連写真8頁

法主様を囲んで

相対が一体になる宇宙の仕組み

平成7年5月21日

第248回大倭会文化行事にて

この時の文化行事の行き先は、往馬坐いこまざ伊古麻都比古神社(生駒神社)でした。翌年二月九日に法主様は帰幽されたのですが、「生駒の神さん(人格霊)が来てほしいとおっしゃるから」と、雨の中、車椅子で、日帰りの文化行事としては最後の参加をされました。その時の社務所での録音が残っています。法主様は声も出にくい様子でしたが、笑いの絶えない座談の中で、法主様の教えを聞くという大倭らしい雰囲気を感じて頂けたかと、編集部の責任でまとめてみました。

オウム真理教のこと

中西正和(大倭会会長) 我々にはもう理解できんようなことが世の中には起きます。法主さん、オウム真理教の麻原彰晃をどない思いはりますか?(平成7年3月、地下鉄サリン事件)

法主 自然の摂理、宇宙の仕組みというのは、いつも言うように相対が一体になるんや。片一方がマイナスで、片一方がプラスという、宇宙の全ての原理はプラス マイナスで作られている。有形、無形を問わず、全部がプラス マイナスで仕組まれているんやな。

そういつた時に、あれくらいの強大な悪が出てくるということは、それに対抗するだけの、本当の真実が出てこなきゃいけないわけで、それは、私は大倭に自覚しています。

(オウム真理教が)表は、宗教という名目で出てはきているけれども…。大

倭の宗教なら、大もとは恒久平和ということやな。そうしたら恒久平和ということ考えた場合、強烈な悪が出てきてこそ、強烈な善が出てくる、その気の動きは霊界では始まっているはずなんです。

だから私は、麻原さんが、えらい対極で生まれてきはった人やなと同情しています。

中西 我々やったら、もうとにかく悪人やと思つてますけど、我々の考えることとは全然違うことおつしやいますなあ。相對即一体の原理から説明されると、片一方にまた平和がくるわけですね。そういうように理解させてもらわないかん。

法主 (聖歌「黎明大倭」の) 一番最後の、昭和維新の比登柱ひだんしちゆう、という、神と人とが一つになる時代というのがこれですわ。

(※「ひ」は霊界の人達のことなんです。「と」は肉体を持つている我々のことなんです。「ひ」の霊界人と「と」の現界人が仲良く、つないでいく柱になることなんです。犠牲になるという意味じゃないんですよ。……これが一つの宗教的な革命なんです。……というて、暴力やとかそんなややこしいやりかたでやなしに、穏やかに和やかに仲良くしていくのが、ここの大倭の霊界の人の行き方です。／平成7年7月号『おおよまと』より)

昭和維新の比登柱を口に出している大倭のような教団がある反面、オウム真理教のような破壊の教団が出てくる。これが相對即一体になって、これによって世の中良くなると思いますね。

だから麻原さんは気の毒や。かわいそうやけれども、ああいう宿命で生れてきた人やから、憎むよりも同情してあげたいと私は思います。

湯浅晴子 私らは、ええ役で良かったね。ええ役やと思つてるわあ(笑)。まず大倭に来れたし。

鈴月かあさん ほんで、法主さんで幸せやつたと思つわけや。もし法主さんが、麻原さんみたいな破壊的なやり方だつたとしたら、私やつたら命がけて行くわ。一つまちごうたら殺し屋や。(笑)

溝口ツヤ子 だからオウムの信者さんの気持かて、そうなんやろうなあ。

かあさん その人らが何でも麻原さんの命令でやつたと言つてしよ。あれは、ちよつと残念やな。

麻原さんに、それだけの徳がなかつたんやなあ。法主さんやつたら、わしが後ろに控えているからと、いつも言うてくれはつてん。それで私らも街頭宣布で、えらそうにしやべつて何かあつたら大倭へ行つたらええとか言えたわけや。

それで私はあの実行した人らも気の毒やなあと思つわ。まあ法主さんのおつしやるような、そういう宿命ということかしらんけども。

湯浅 やつてる時は、世のため人のためやと信じて、燃えて幸せな気持でしてるんやろねえ。

藤田啓子 宗教も、ほんまにトップによって違ふんですよ。

中西 そうですよ。私が以前に入つていた宗教をやめたのは、それですねん。人の上に立つて道を説くということは、どれくらいこわいことか。

宇宙の仕組みとか霊がどうとか、口移しに教えておるんですよ。けれども果たしてほんまやろかと疑問を起こして、周りの信者をいろいろ見てましてん。それで自分でもよう分からんことを、教えや言うて、皆同じように口移しに言うということはいかんと思つたんですよ。やつぱり、各人がつかむもんやないと間違ひやと思つて。

藤田 解釈によって大分違いますもんねえ。

水野勝美 僕はもう三十年近く大倭に寄せてもらつていて、良かったなあと思つてますねん。やつぱり自分に合うものがありますねん。

仲良く暮らす

湯浅 他所は他所として、まあとにかく私らがこれから何をするか言うたら、福祉の手伝いと、それから皆仲良く楽しく暮らすことやね、法主さん。お互い年も取つてくるし、助け合わんと。

中西 仲良うが、なかなかできまへんのや。今朝もけんかして来ましてん。今日は襷ぎせないけません。(笑)

中西千津江 私がちよつと言つたら、もうグワツグワツと言いますねん。(笑)

かあさん また言われるようなことするんやろ。溝口 でも会長さん、同じこと言うのでも、やつぱり言い方一つで違いますやんか。私らは妻の味方やから。(笑)

千津江 ふわーつと言つたらええねんけど、ワーツと言つてびつくりする。一番先に息子が、今日は何やご機嫌悪いのかつて言うてますわ。

溝口 虫の居所が悪かつたんですよ。

中西 ま、そういうことです。

平谷照子 そんな風には絶対見えませんけどねえ。

千津江 会合にでも行きますやろ、いつもいつも家内に怒られますねんと言つてるらしいんですよ。中西さんとの奥さん強い人やなあつて言われますねんで。(笑)

法主 うちのおじいちゃん(※お父さんのこと)も、そんなんや。かわいらしい人や。子供と一緒にやねん。カアーツと怒るし、何かあるとウロウロしはるしな。(笑)

アホほど人がええやろ。生母さん(※お母さんのこと)の悪口、みんなのところで平気で言うやんか。そしたら、「旦那はん！ またなあーつ」

て言われて。(笑)

終末思想のこと

湯浅 この神社は、山やからやはり龍神さんなんですか。

法主 龍神さんやけど、今日の雨はどないもならんかってんのう。

中西会長 雨もまたよしということですか。

法主 この天候が悪いのは、(霊界の) 気の影響があんねん。悪が強いねん。

湯浅 天気も関係あるんですか。

法主 やっぱり皆が喜ぶようにならんや。うちの文化行事でも、雨が降ればしくいわな。

とにかく霊界が狂ったら、現界も内閣から始まって全てが狂うねんもの。

それで宗教というのは大事なことやねん。そら、オウム真理教の影響力はたいしたもんや。

湯浅 あれだけ日本中、世界中騒がしてるんやもんなあ。その前の阪神大震災(平成7年1月)が、かき消えるほどでしょ。

法主 ああいうような天災も、ようけい来るねん。日本だけやないやろ、世界中やろ、これ。

世の中が正と邪のこれ(※手振り表現で「けんか」、||せめぎ合いの意味か)やな。結局バツチりいかんかったら、平和にならんやもの。戦争でも血を流して、その後、今度は平和が来るんやしな。

湯浅 その時、正しいのは必ず勝つんですか。

法主 それは、正しい方が勝ちます。悪はやっぱり退散しますよ、最後は。

湯浅 それなら安心やね。

法主 心配いらん。

最近、地球の終末思想をやかましく言いますや

ろ。そんなん、絶対ないよ。

かあさん もし終末が来たとしても、どうしようもないねんものな。私らそんな話、もう聞きとわないわ。

法主 何億年もかかって出来た地球がやで、そんなに簡単に終末が来るかいな。やっぱり根が深かったら先は長いねん。それが結局、宇宙の原理や。

かあさん それでも終末思想の影響で、自殺するような子供が居つたりするやろ。

法主 あれはもう仕方ないわ。

水野 今の時代、若い人はもう何もかも満たされてるといふこともあるのんちがう？

湯浅 平和がずーつと続くと、こういうことも起こるといふことですか？ 練りかえされているんかな。

法主 山を切つてもたり造成したりするから、人災が起こるわな。けど、終末というようなことめつたにあらへん。

あんなん言う人は、自分のところに入つたら助かると言うわな。自分らだけ、助かるというあれがおかしい。

中西 やっぱり利己的な信仰ですな。

神ながらのこと

かあさん 何、喜んでんの？

嶺本佳秀 麻原にね、何か悪霊ついてんのかなと思つて。(笑)

法主 そら、ついでるやろ。まあ少々、掻き回しよつたかて、世の中めつたにつぶれへんがな。

洗脳する能力を持つとるんやな。そうなると思者は善と悪、どっちやこつちや分からへん、もう

区別がつかんへんねん。普通、人間言うたら、な

かなか洗脳なんかで変わるもんと違うで。そやから、えらい箔がついたんや。

平谷 オウム真理教は仏教だと言いながら、ヒンズー教のシバ神を主神にしてるんですけど、シバ神というのは仏教とも関係あるんですか？

法主 インドの原始宗教がヒンズー教やな。お釈迦様は、そこから抜け出て、自分が立とうという流れやわな。

お釈迦さんは、案外、霊界のことを説いてはらへんよ。現界ばかりやからね。

うちの孫の行つてる高校な、毎朝、般若心経を唱えさすねんて。

中西 私も中学校が仏教系で般若心経、せんど唱えました。

法主 般若心経の極意は、自分の物は何一つない、肉体も自分の物と違うという、それやねん。現世において、我が物と思うけれど、死んでしまえば、財産があつたかて結局、全部人の物やわな。だから、生きている間、欲を出すなと言っているだけや。それが極意やねん。

そんなやつたら、「神ながら」の方がええわ。我が物は何一つもあらへんと、その心になつたら、毎日の生活ちよつと難儀やで。飯を食つたかて、これ人の物かと思つてみい。(笑)

中西 神ながらが気楽でよろしいな。

かあさん でも谷川雁さんの話、よう忘れんわ。久つちゃん(※平山久さん)やとかダンちゃん(※柴地則之さん)とかと東京で一緒に食事したことがあんねん。その時、雁さんが「お前ら、神ながら神ながらと言っけれども、神ながらというもんは、暑い時に素っ裸で冷たいビールを飲むよなもん」とちがうぞ」って言うてな。(笑)

中西 えて勝手な神ながらですな。

湯浅 都合の良いようには何んぼでも言えるけ

ど、ほんまの神ながらを説明せいと言われても、出来ないわ。

溝口 あんまり執着心さえ持たなければいいんでしょ、法主様？

法主 簡単に言うたら、自然主義やな。自然を尊重するということや。一番、気楽や。その代わり行き過ぎたら命あらへんわ。飯がうまい言うて、そればっかり食うとつてみい。

中西 女、好きや好きや言うてもやなあ……。 (笑)

湯浅 日本の宗教は神道で、昔は神ながらと言うてたんですか？

法主 昔は、神ながら以外無かつてん。

湯浅 今やったら仏教やキリスト教やあつて、神ながらというのは、ものすごく知らない言葉に聞こえるんですが。

法主 日本の従来持っていた神ながらの宗教の内容を、仏教が理屈で説明しているねん。本地垂迹ほんぢしりせきになつてもてん(※仏や菩薩が衆生救済のため、姿を変えて日本の神になつたのだとする説)、神道と仏教が夫婦になつたわけやねん。神道がお父さんで、仏教がお母ちゃんや。

湯浅 それで、日本人に合うようになった……。法主 それで日本で仏教が栄えたわけやねん。仏教は、哲学で説明しているからね。神ながらは理屈を言わへん。なかなか説明しにくわ。悟りやからな、難しい。

中西 心で感応するのと、理屈で言うのんと、そうなるんですな。

かあさん 仏教の大学へ行っているような学生さんが、法主様のお話を聞いて、そして学校の講義を受けたらよう分かったと言うてたな。

湯浅 理論付けがされるわけですな。

(以降、テープ終了)

あじさいアルバム ⑥ — 法主様と一緒に —

▼ 矢追 明昌 ● あじさい屋

法主さん(以下法さん)との思い出といつても、二人だけの思い出みたいなものになるとかなり少ないような気がします。
仕事からみになつてしまふのですが、憶えている事の一つは、平成6年か7年の長曽根寮建て替え工事が終わる頃だったでしょう。法さんと鏡池の端を歩いてい



昭和51～52年頃 右端が私

た時、建て替えに伴う5億の借入金の担保として、建物の底地などを入れたことの話になりました。余りにも大金だったので、私は、返済できなくなつたらどうするのと聞いたら、法さんは「返せなかつたらもつていつてもらたらええねん。命まで取りにこんやろう」というような事を言っていたように記憶しています。

当時の私にとつてその言葉は、法さんがゆうてるのやからそうなんやろう程度に聞いていました。改めて考えてみても、自信の表れなのか、
「LET IT BE」なのか、はたまたプレッシャーなのだろうか結局よくわかりません。誰でも事業を継続していこうとすれば、石にかじりついてもというような意気込みが出てくると思うのですが、私にはそんなふうには聞こえませんでした。
そして今となつてはその真意は定かではありませんが、結局その言葉は事業を受け継いでいく人に宛てたメッセージではないかと考えるようになりました。これですごく都合のいい解釈なんですけどね……。

▼ 且田 英行 ● 三重県名張市



大倭会第二
一〇回文化行事(平成二年十月)で奈良
↓川湯温泉↓
熊野への旅の時、神倉神社
でめずらしく
法主様が僕と
肩を組んで、
山上まで五三
八段の長い石段を頑張つて登られた時の写真です。法主様のぬくもりと重みが、今でも僕の肩に残るとても楽しい思い出の一枚です。

▼ 岸野 春子 ● あじさい屋

昭和46年の3月に、5年間大倭から通勤した大阪の聾学校を退職、大倭でやっていたことにした。自分はやっぱり福祉だなど思ったので、その年1

くれたような気がした。法主さんの細やかな心遣いが、私の心には正にお日さんの光のように届いた。写真は平成6年、大倭印刷の会食の折(ご馳



とした用事で法主さんがわざわざ事務所に来られた。滅多にないことらしく、皆驚いていたので、私は密かに法主さんがさりげなく私の様子を見に来て

月に開園していた菅原園はどうかと法主さんに相談した。法主さんは(当時園長は今井富蔵さんだったが)瑞光院の茶の間で、次長の矢追美壽紀さんに話してくれた。やや疑わしそくに、「寮母しかいらんのよ」と言われたが、「何でもさせてもらいます」と4月から働き始めた。親にも長い手紙を書き、それまでの貯金は全部送った。それぐらいの意気込みだったが、20年で早期退職をして、大倭印刷に居場所を移した。法主さんは「思うようにしたらええやないか」と言わはるにちがいないと思つて事後報告したが、「印刷で何すんねん」と心なしか厳しい口調で、「根性なし」と響かないこともなかった。それでも印刷で仕事を始めて直ぐの頃、ちよつ

走を前にしての、皆の表情がおかしい)、右から3人目が聾者の同僚に要約筆記中の私。

▼五十嵐輪孺美 ● 奈良市千代ヶ丘

この写真は叔父の矢追隆義氏から後年頂いたものの一枚で、三脚を立てて父(※法主さん)が撮つたものと記憶しているが、父、父がしつかり抱いているのが弟(※家麻呂さん)、後の乳母車に零歳の妹(※美壽紀さん)母と祖父母は家の中、あと弟二人、妹二人はまだ父のお腹の中にいた頃の写真である。



この家は山の中腹を切り開いた所に建っている。南に大和の峯々が霞み、眼下には桜の花と共に流れる富雄川、「象鼻」と呼んでいた前庭には松や桜、楓や柿等の樹々が繁り、夏には母が伸子張りをした。秋は月や紅葉、松風が蕭々と吹く頃は子供達は家の中で遊ぶことが多くなる。そんな雪の積つた朝、私はガラス戸の内に貼り付けて来た父が「雪か」「ふん」少し立ち止まって一緒に眺めていた。「あのナ」初雪や二の字二の字の下駄のあとと「云うてナ、昔の人が作らばってん

で」あと少し句や情景の説明があったように思うが、はつきり思い出せない。軽く話をして長い廊下を手洗いに行く父の後姿を見送りながら、「お父ちゃんおおきに」と言葉には出さなかったが、とても暖かいものに包まれていた。それ以来、雪景色には二の字二の字が見えるようになった。成長と共に雪への思いは複雑になった。昨年末の大雪の被害は痛ましい限りである。心からお見舞い申し上げ、一日も早い復旧を祈るばかりである。

▼古澤 満 ● おじやごい

今回、あじさいアルバムに掲載にあたり原稿の依頼を受け、法主様との思い出を考えると、それは今から13年前頃の夏だったと思いますが、岡山県的美甘村(※現、真庭市美甘)でインド舞踊のシヤクテイさんの舞台が行われるので、法主様、母さん達と車で行った時の事でした。美甘村は宇南寺や玉泉寺など江戸時代の宿場町として栄えた町並みがある所であり、それとともに、風力を利用した発電所が隣接しているので、自然エネルギー発電システムを利用した大きな風車が見える所に



この写真を撮影したのが私

風ぐるま

『二十四歳論』

昨年の九月四日、私の通う大学に、★☆北区つかこうへい劇団がやってきた。親友の高野瞳さんの妹、愛さんが劇団の看板女優という御縁で、有志が、大学での公演を手弁当で企画。実現したのもだった。演題は『熱海殺人事件』。迫真の演技が、今も胸に響いてくる。

つか演劇の特徴の一つは、それぞれの登場人物の台詞に、深い生活史が孕まれていることである。差別を受けた人がさらに自分より弱い者をつつけて差別をするという、日本社会の横の差別、階層意識とその連鎖。グレイゾーン。そのような社会病理を身の隅々まで背負い込まれた人達が、共依存したり、激しすぎる欲望や矛盾を、愛憎にまみれた他者にむき出しにしながら、自分の生活史を乗り越えようと必死に闘う。彼らは、連続と続く歴史集合的な無意識を、演劇という（場）で浄化（katharsis）（カタルシス）しているかのようだ。観客は、肉面的な垢が、胸元を抉られるような（場）の中で磨かれていくのを感じる。まさに舞台における現れが、洗われていくのを、自らの内なるあらわれの中で味わい、同時にそれを見ている。演劇の（場）は、このような稀有の経験に身を晒される、一種の神話的な時間の中にあるといえよう。

つか演劇は、好き嫌いがはつきりわかれると聞く。これは私には、好き嫌いというより、人が闇を見据えるか、背けてそれに蓋をしようかの違いにも思える。ここにかの谷川雁は、このような精神や態度に関わると思われる、『決定的瞬間二十四歳』という文章を残した。

への返信

東京都八王子市 永 仮 まゆり

二十四歳という年令に、私はとくべつの意味を与えている。どちらかといえば植物の根などに似ているとおもわれる人間精神が、一気に おとなの色 を帯びてくる季節は、肉体の成熟などよりもっと切迫してみじかい時期にだれもがぶつつかると感じられてならない。幾月かの朝夕がさつと染め上げる織物のように、私たちはそこで自分独特の意識にもはや消えることのない模様をつけてしまうのではないか。その模様とは、たぶん今後の生き方に関わるものであって、世間に妥協するとすればその度合い、妥協しないとすればその反抗の手法がおよそきまってくる。 後略

宮沢賢治は、この短い嵐のような時期に、魔のような力で八篇の童話を書ききった。同様に、つか氏の熱海殺人事件も二十五歳で戯曲賞をとった作品である。二十代の作品が時をまたいで、色褪せぬ力を持ち続ける。闇の中から発光する新鮮で強烈なエネルギー。殊に舞台は、二度と同じものは観られない、日々変化する生き物である。役者と観客の、真剣な祝祭の場である。

話は飛んで、宮崎駿の『ハウルの動く城』は演劇とは色が違うけれど、これまた怪物のようなエネルギーを持った作品であるとおもう。私の魂を賑わす、大きくまると虹の光のためである。

戦火の中で戦争をやめさせるために、自分の魔力を使って孤独に一人で闘う魔法使い、ハウルに、ソフィーは「あの人は弱虫がいいの」という。勇敢であるとか、正義の為だとか、そんな価値付けに一切意味をもたせず、弱虫がいい、と。弱虫

であることが、戦争で闘う事に比べたらどれ程の幸福か。ソフィーのハウルへの愛と、その透明さは、肥大化した国家権力に対する、精神的に最もアナーキーな抵抗になる。

自らの魔法を、王国の国防や戦力として使うことをよしとする王室つき魔法使い、サリマンは、自由に魔法を使い、王国に靡かないハウルを「悪魔」とまなざす。けれど、サリマンは、自分の中の弱さ（彼女の場合、愛弟子、ハウルに裏切られた寂しさ）を他者に対する過度な剛健さ（社会的正論）にすりかえる。そこで実は自分が悪魔的（戦争に加担している）になっていることには気がつかない。ほんとうの意味での悪魔は、自分自身の魂を、戦争という全体主義にあげわたしてしまった無明の群だということに。

ハウルの城には、孤児の男の子、魔力を失った老婆、荒野を彷徨う案山子、老犬、火の悪魔カルシファーが暮らす。サリマンが「悪魔」とまなざしたことに象徴される構図は、そのまま権力の中心にとつての周縁、異端、弱者となる。けれど彼らはとてもユニーク。血のつながりは無くても、かけがえのない絆で結ばれている。愛嬌者達の愛しい暮らし。遊んだり、泣いたり笑ったり、いたずらしたり、時には意地悪してみたり。私たちは決して中心主義でない中心からのみ、世界を明るく賑わすことができる。

霸道的な「切捨て」や、「祓い」が相変わらず流行っている。風雲児気取りの政治家をはじめ、権威的な匂いのそれは、人々の心の隅々に浸透、潜在し、苦や悲を連鎖させる。けれども、浄化／希望の心の刻印は消えることはないし、手にとつて、目に見えるほどに美しいものがたりを私たちがは知っている。無限に開かれゆくものがたりを、紡いでいけるのだということも。（横浜市立大学院）

AWTC日誌

1月13日 昇ちゃん、お年玉で念願のデジカメを購入。青山法義さんに一番簡単なものを選びまくってもらったが、それでもちよつと難しい様子……。

1月14日 午後6時から「天平倶楽部」で、邑の各事業所の交流のための集まりである邑交会が新年会を行いました。

1月15日 大倭神宮月次祭。

午後6時から邑の近くの「木曾路」で本紙編集部の新年会。『おおやまと』も第425号の節目でした。

1月17日 午前10時より大倭殖産株式会社と安全衛生協力会（殖産の関係業者の会）の皆さんによる安全祈願祭が大本宮拝殿において執り行われました。



▲ 完成前 左野石材さん写

1月21日 夜、交流の家でFIWC定例委員会。

1月23日 大倭大本宮月次祭。

朝、雪花が舞う。この日は『おおやまと』1月号の元である昭和37年1月23日の法話の録音テープをお聞きしましたが、雪花の話から始まっていました。

2月1日 邑の反保隆臣さんは奈良市人権教育推進研究会の富雄南地区委員として、長島愛生園の見学に参加。ハンセン病について改めて「勉強になったわ」。今の愛生園については「素晴らしくて驚いた」との事。

2月3日 玉緒祭（霊緒祭）。昭和37年2月3日の法話の録音テープをお聞きしました。本紙3月号に掲載予定です。

2月6日 大倭神宮月次祭。古代史に興味があるという仲野清快さんがお出でになり、修



▲ 完成前 左野石材さん写

験道にかかわっておられるそうで、法螺貝を鳴らして独自のお参りをしておられました。

夜、大倭会館で、邑の主だったメンバーの情報交換のための集まりである邑倭の会が開かれました。

2月7日 朝早く千葉市の永長貴昭さんが来邑されました。

2月9日 法主様帰幽満10年目のこの日、午後1時30分から奥津城においてお参りの後、大倉弘さんの主宰される「じよんがら家」6名による津軽三味線の合奏奉納がありました。

午後2時から大本宮拝殿において帰幽祭が行われ、その後昭和63年12月23日日聖祭の法話ビデオを見せて頂きました。拝殿に京都の、難病で足がご不自由という草川アヤ子さんが法主様の顔写真から製作された



▲平成17年12月23日 日聖祭 完成除幕式 井手泉さん写

クロスステッチが飾られました。三ヶ月かかったとの事。

大倭安宿苑では

(菅原園)

1月1日 35年目の創立記念日でした。

1月17日 建て替え工事が無事終わり、仮設の住苑者も戻り、約2年ぶりに皆そろっての新生活が始まりました。

引き続き、仮設の解体工事が始まりました。

(須加宮寮)

1月26日 住苑者、職員が一緒になって演芸会を行いました。

(長曾根寮)

1月26日 美容ボランティアにお化粧をしてもらいました。

2月8日 人気のイトーヨーカドー出張販売がありました。

(八重垣園)

1月15日 茶道クラブによる初



▲平成18年2月9日 帰幽祭 津軽三味線の奉納 齋藤正宏さん写

ATMIC

釜が行われました。1月25日 俳句クラブ。「初電話幼き孫やばばと呼ぶ」「初日の出富士を仰ぎて旅の宿」「枯れ木にも皆それぞれ風情あり」「老い一つも琴に打ち込む年始め」

* 月次祭（大倭神宮）

3月6日（月） 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四八回禊会

3月12日（日） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

* 月次祭（大倭神宮）

3月15日（水） 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭（大本宮）

3月23日（木） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。